

こだまの  
日常生活紹介  
高橋 義孝

こだまは、入所者17名(横  
地分類A1が12名、A2が1  
名、B1が3名、E1が1名)  
が生活をしているゾーンです。



Aさん(横地分類A1)は、  
積み木を叩いて鳴らす音を聴  
いて、リズムの変化を楽しむ  
活動を行っています。Aさん  
に「活動を始めます」とそつと  
声を掛けると、顔や目の動き  
が止まり、職員の声を聴いて  
いることがわかります。「ト  
ントン・トントン」と積み  
木の正面で優しく鳴らし  
始めると、キョロキョロと動  
いていた目の動きが止まり、  
音をじっと聴いている様子が  
みられます。トントン・

トントンの一定の単調なり  
ズムから、トントトコトント  
ン・トントンと拍子が速く  
なった時に、目を大きく見開  
いていました。単調なりズム  
から速いリズムが変わったこ  
とで、リズムの変化を感じて  
いるようでした。繰り返し鳴  
鳴らしていく中で、音と音の  
あいだに間を空けると、目を  
キョロキョロとさせたり、顔  
を後ろに反らせたり、音を探  
しているような様子がみられ  
ます。そこで、再びトント  
ン・トントンと鳴らすと、  
キョロキョロしていた目の動  
きが止まり、音が聞こえてく  
る方向に顔を向け、またじつ  
と音を聴き始めました。音が  
聞こえてくることを期待して  
待っていたように感じました。  
活動を終えると体の力が抜け  
ている様子から、積み木の音  
を集中して聴いていたことが  
わかりました。

Bさん(横地分類A1)は、  
リズムやテンポのよ  
い話や詩を聴いて、フレー  
ズの繰り返しや、言葉のリ  
ズムの変化を楽しむ活動を  
行っています。

絵本の『たあんき ぼおん  
き たんころりん』を読み始  
めると、それまでは声を出し  
たり、顔や身体を動かしてい  
たのですが、動きが止まり

じつと聴き始めます。読み進  
めていくと、「ごっつんこ」や  
「すってーん」などの、擬音  
語や面白い言葉を聴いて笑  
います。2回目を読むと、「ごっ  
つんこ」の言葉が出てくる少  
し前から微笑んだように笑っ  
て、面白い言葉を期待して、  
待っている様子がみられます。  
期待して待っていた言葉が聞  
こえてくると、声を出して笑  
います。擬音語や面白い言葉  
を聞いて笑っているのですが、  
読み進めていくと、再びじつ  
と聴き始めます。Bさんは、  
擬音語や面白い言葉を楽しん  
で聴いますが、繰り返し聴い  
ていく中で、同じようなフ  
レーズが繰り返されているこ  
とを感じて、話の次にくる擬  
音語や面白い言葉を自分で予  
測し、期待をしながら聞き楽  
しむようになったと思います。



新人職員紹介

●あすか 竹内 里華

私は幼い頃から障害者に関  
わる仕事に就きたいと思って  
いました。学生の時おぞら療  
育センターで実習をさせても  
らい、雰囲気や利用者に対する  
職員の接し方がとてもよいと  
感じ、ここで働きたいと思い入  
職を希望しました。実際に働  
てみると処置も多く、時間に追  
われる日々であつたという間に  
時間が過ぎていきました。言葉  
で自分の思いを伝えられない  
人がほとんどで、私たちがど  
うすることが一番利用者にとつ  
てよいのかを考えることが大  
切だと感じました。これから  
日々学びながら成長してい  
きたいと思っています。

●あすか 瀧本 麻理萌

社会人となって早四ヶ月が  
経ちました。学ぶ事の連続で  
日々忙しく、時間はあつとい  
う間に過ぎて、学生時代の実  
習でおおぞら療育センターに  
来て学んだ事がとても昔のよ  
うに感じます。自分は元々せ  
っちな性格のため、ひとり  
で焦って急ぎ過ぎ、失敗して  
しまう事が多いのですが、実  
習で自分が心打たれた、個別

性を見つめた優しい丁寧な看  
護を、先輩方からひとつひとつ  
つゆつくりと引き継いでいき  
たいと思います。ご指導宜し  
くお願い致します。

●うらら 生島 綾乃

おおぞらに就職してからめ  
まぐるしい毎日を送っていま  
す。私が配属されたうららでは、  
今まで自分が関わってきた重  
症心身障害者のイメージとは  
大きく違い、コミュニケーション  
のとり方や介護の仕方など、  
上手いかならないことや戸惑  
う事が多くあります。しかしそ  
のような日々の中、試行錯誤を繰  
り返して自分自身を育ててい  
きたいと思うようになりまし  
た。これからもたくさんのこと  
を吸収し、日々精進していき  
たいです。

●あおば 山崎 愛子

初めまして。生活支援員と  
してあおばに配属されました、  
山崎愛子です。  
最初の二ヶ月は、介護の経  
験がなかった私にとって、仕  
事に慣れることで精一杯の  
日々でした。特に、今まで関わ  
ったことのない医療的ケアを  
必要とする方の介助では、毎  
回緊張しました。しかし、少  
しずつ慣れ始め、利用者一人  
ひとりをえられるようになり